

静岡県老人福祉施設協議会

平成29年度事業

特別養護老人ホーム

待機状況調査報告書

平成30年3月

特養委員会

はじめに

日頃より、会員事業所の皆様におかれましては、静岡県老人福祉施設協議会特養委員会の事業推進に格別のご支援ご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

今回、特養委員会として、29年9月に特養における待機者の状況について調査を行いました。会員の皆様には大変お忙しい中ご協力をいただきありがとうございました。

従来型118施設、ユニット型92施設、計210施設から回答をいただきました。今回の調査結果について報告いたします。

今回の調査の目的は、平成27年4月の制度改正で特養の入所が原則要介護3以上になったことにより待機者の人数が減少してきていると思われるため、各施設において待機者の状況をどう捉え、どのような対応をとられているかを調査し、県との懇談会に活用することでした。

今回の調査結果で、待機者の状況は各保険者ごとに大きく異なることがより明らかになったと思います。施設整備を含めて各市町の特養が協力して保険者と話をしていくこと必要だと思います。また危機的状況になっていくと感じている施設も少なくないので、これまで以上に各特養が協力し、情報交換をし、会員が一丸となって制度へ働きかけていく必要があると思います。特養委員会としても会員皆様にとって有意義な調査研究を行っていきたいと思いますので、これからもご協力をお願いします。

静岡県老人福祉施設協議会
特養委員会 青野 容幸

待機状況調査を実施しての考察

今回、待機状況調査を行い、待機者が少なくなっていることが明らかになりました。予想された結果ではありますが、ほとんどいないと回答した施設もあり、今後特養が存続していくうえで厳しい現状にある施設が一定数あることもわかりました。

以下に待機者の傾向、考えられる理由及び会員が取っている対策を記します。

1 待機者の格差

待機者はほとんどいないと回答した施設がある一方で、十分いると回答した施設もあり、施設による格差が大きくなっています。この施設間の格差は東・中・西によって多少の違いはありますが、傾向としては同じような結果が出ております。

市町別にみると静岡市、浜松市を除いて待機者がいる市町と待機者が少ない市町に分かれており、今後の施設整備を考えるうえで参考になると思います。調査結果を基に、各市町との話し合いが重要であると思います。静岡市、浜松市についてはさらに細かな区分での分析が必要であると思いますが、政令市の中でも各区もしくは地域によって待機者のばらつきがあると思われまます。

2 待機者減の理由

なぜ待機者が減ってきたのでしょうか。制度改正により入所者が原則要介護3以上になったことは大きな原因と考えられますが、今回の待機者が減っていくと考えられる理由は？という設問に対し、他の高齢者施設の整備との回答が最も多かったです。グループホームを含めた介護保険施設の整備が進んだことでもあります。サービス付高齢者住宅等の高齢者を対象とした住まいの急増が大きいと言えます。一般の方は、入所施設を考える場合、サービス付高齢者住宅等と特養を同じように考えている方も少なくありません。高齢者住宅等の動向を注視するとともに特養との違いを発信していくことが重要だと思います。さらに次期報酬改定で新設される介護医療院は、特養にとって脅威になるかもしれません。

待機者の動向については、今後においても調査を続けていく必要があると思います。

3 利用者確保対策と今後

上記のように待機者が少なくなっていることを受けて、皆様に利用者確保のために行っていることを書いていただきました。営業活動として病院、居宅介護支援事業所、在宅施設へのPR、地域イベントでのPR、ホームページ・ブログ・広報誌での情報発

信など様々な取組を回答していただきました。ぜひとも参考にいただき、できることを実施していただきたいと思います。何もしていない、なすすべが無いとの回答をいただいた施設もありますが、特養として存続していくためには待機者の確保は不可欠ですので、近隣の施設とも連携して利用者確保に努めていただきたいと思います。一方で、特養はセーフティネットとしての使命も果たしていかなければなりません。今後は、処遇困難な方の受入、医療的ケアの必要な方の受入、生活困窮者の受入など特養の機能を生かした積極的な受入がより必要になってくると思われます。各施設の機能を強化する努力が必要だと思ひます。

会員で協力し合ってこの危機を乗り越えていきたいと思ひますので、これからも調査へのご協力をお願いいたします。